花まるだより

2026
10
Hanamaru
Monthly
Newsletter



サマースクールより



高濱コラム

花まる学習会
高濱 正伸

2026年10月 うまくいかないこと

夏の終わり、COTEN RADIOで帝政ローマの五賢帝をやっていました。あいかわらず細部細部に学びが詰まっていたのですが、おもしろかったのは五賢帝に限らず歴史全体を眺めたときに、「（カリギュラやネロの時代のあとに五賢帝時代が来るように）最悪の指導者のあとに賢帝が出る」という話でした。それは同時に「（マルクス・アウレリウスの直後にコンモドゥスが出たように）賢帝の直後には愚帝が出がち」ということでもあります。意味は、ひどい指導者を見させられると反面教師となり、次代のトップ候補を含む国民皆が「まずい！　こんな状況だけは脱しなければならない」と問題意識をもち、心底の願いとして改革に向かう。しかし、安定の良き時代は覚醒が生まれにくいどころか「このままで良い」と変化を望まない方角にジリジリ衰退へ向かう。その大きな傾向のなかで無哲学または放蕩の愚か者も出がちということです。

いろいろ考えさせられます。さしずめいまの日本は、あれこれ嘆く人はいますが、世界と比べたときに、戦争も回避し経済も豊かで平和な時代が長く続いたからこそジリジリと衰退が続き、「必要な改革ができない落とし穴」から抜け出られない状態なのでしょう。黒船襲来とともに植民地化させられるかもしれない猛烈な危機の直後に明治維新とその後の発展を成し遂げたことや、太平洋戦争の敗北の焼け野原のあとに歴史的な経済復興を遂げたことを考慮しても、もっと徹底的に転落しなければ徐々に衰退する「ゆでガエル」状態を抜け出られないのかもしれません。

歴史は、指導者を見ても国全体を見ても、「上がったり下がったりの変化を繰り返していく諸行無常の波のようなもの」ともいえるかもしれません。そしてこれは、会社や個人というレベルでも同じだと思います。何かを成し遂げた人物の個人史を研究するに、「苦労した人は強い」と言われるように貧困や失敗・挫折・孤立といった不遇な経験をした人が多いことは確かですし、会社もそうですが、成功のあとには往々にして現状維持志向がはこびり衰退がはじまる。

これらは不完全ゆえの愛おしい人間の性でもありますが、いまを生きる我々はどうあるべきでしょうか。特に親としてどうすればわが子の心に火をつけられるでしょうか。

一つは、百年企業のように何代にも渡って営々とバトンをつなぎ発展している会社に学ぶこと。そこには帝王学（次代を担うトップを育成する厳しい教育）があります。それは、計画性をもってつらい経験をさせること、とも言えるかもしれません。中身は多様でしょうが、必ず共通項もありそうで、今後研究してみたいと思います。

ただ、「○○家の帝王学」が書面として存在しなくても、子育てで意識的にできることはあります。一つは「厳しい経験に背中を押す」ということだし、「わが子の試練を良き機会ととらえる」ということです。ことなかれの順境や安穏に浸かっていては、人は育ちません。「心が跳ねる（強くなる）」のは逆境に直面したとき。そのときの子どもはつらいですよ。しかし「おうち（絶対の居場所）」があって「母（絶対の守護神）」がいれば、心は回復します。難局に直面した経験の反復のなかで強靭な心が育まれる。『ちゃんと失敗す

新刊情報

『AI時代の“伸びる子”の育て方
「補助線を引ける」魅力的な大人になる』



高濱 正伸　著
（カンゼン）

AI時代だからこそ大切にしたい、人としての土台を家庭でどう育むか。相手の気持ちをくみ取り、本質を見抜き、新たな価値を生み出す「補助線を引く力」を、30年にわたる教育実践をもとに高濱が語ります。これからの子育てを考えるヒントが詰まった一冊です。

『「人の器」の磨き方
**リーダーシップ・コーチングと
成人発達理論による人間力の変容プロセス』**

高濱の本棚



加藤 洋平／中竹 竜二　著
（日本能率協会マネジメントセンター）

AI時代だからこそ、人に何ができるか、は侃侃諤諤さまざまなことが言われているが、本書は、「人の器」という形なきものの探求書。逆境や越境の価値など、教育者や子育て中の保護者にとって、とても参考になる一冊だろう。

タカタコラボ 北澤アニマル優太
東京生まれですが、父の転勤で引っ越して、小・中・高は名古屋で育ちました。住所が高坂町という山のてっぺんみたいな土地だったので、思い出は長い坂の上り下りです。中学・高校ではテニス部だったのですが、部活の練習でしこたま汗を流し鍛えたあと、40分の道のりを自転車で帰る最後に地獄の坂。「途中1回も足を着かない」というルールを作り、ヒーヒー言いながら帰宅しました。

る子の育て方』（西郡文啓・高濱正伸 著／総合法令出版）ではないですが、きょうだい喧嘩・友人との諍い・お稽古事での挫折・試合でのエラーや敗北に直面したときは親だってへこんでしまうものですが、慰めではなく「これはこの子が飛躍する機会」と捉えてほしいところです。ジャン＝ジャック・ルソーの言葉を借りるまでもなく、少なくとも「わが子に艱難辛苦が来ませんように」という方針で強い人は育たないことだけは言いきれます。

　また、親御さん自身についてもこの点での学びがあると思います。それは、完璧な親でなくても「反面教師」という救いの道があるということ。長年、無数の家族を眺めていると、優秀なご両親に勉強のできる子が育つ傾向は明確にあるし、深い愛情を受けられることはどんな子でも何よりも大事。ただ、立派な親かというと世間的にはクレーマーと呼ばれるような方なのに、子どもはちゃんとしているなというケースもありました。

　20年以上も前ですが、何かあると突っかかってちょっとした連絡忘れのようなことにも怒鳴り込んで文句を言ってくるお母さまがいました。うちはまだまだ軽いほうで、学校などには始終クレームを言いにいっていたらしいのですが、あるときそのお母さんが帰ってしばらくして本人が通学してきたときに、「先生、うちの母また来ました？　本当すみません。私にとっては良い母なんですけど……。外には食ってかかるところがあるんですよね」と、親に代わって謝罪するのでした。「親ガチャのハズレだから」と親に恵まれなかったことを言い訳にするような残念な人も多いなかで、反面教師として前向きに外交の人間力をつけた事例かもしれません。いずれにせよ負の受け取り方と本人の器次第ではこういうこともあります。

　いま多くの経験をして振り返ると、そのお母さんに足りないのは夫婦の信頼や共感だったようにも思いますが、言いたいのは、立派な親であろうと無理して心がカラカラになってもよくない。子育ての方針を持ち、頑張ってみる。けれど、達成できなかったり、やるべきことから逃げてしまったり、子に言いすぎたりとうまくいかなくて後悔するようなことがあっても、自分を責めすぎないでほしい。奥の奥で「結局私のことを愛してくれているからこそ、こんなに感情的になっているんだな」と子どもに伝わってさえいれば、子から見て親のその姿はあまりよろしくないなと思える行動だったとしても、まず少なくとも反面教師としての価値は存在する。そもそも誰もが不完全。根っこでは頑張ろうと真剣に向き合っている自分を信じ、「ま、いっか」と自分を許しながら過ごしてほしいなと、毎日毎日多くの子育て相談のお手紙を読んでいて感じました。

花まるだより 2026年10月号
（令和８年 10月15日発行）

編集・発行	株式会社こうゆう 花まる学習会
発行人	高濱 正伸
企画・編集	久慈 菜津紀
編集	金井 彩・清田 奈甫 坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン	春日 梨沙・西野 奈布子
印刷	アークランド株式会社

2026 講演会情報

高濱による子育て講演会を開催します！

詳細・お申し込みはこちら！



神奈川
11/23（月・祝）
11:00～12:30
「子どもが伸びる家の親のあり方」
武蔵小杉駅 徒歩５分
川崎市コンベンションホール

埼玉
12/10（木）
10:30～12:00
「１年生になる前に」
浦和駅 徒歩６分
埼玉会館 小ホール

大阪
12/20（日）
10:30～12:00
「AIによる激変の時代、最高の子育てとは」
天満橋駅・北浜駅 徒歩５分
エルおおさか エルシアター



▶各地で開催予定です。決まり次第、HPでお知らせいたします。



全国の花まる教室長、約 150 人をまるっと一年かけて高濱が直接インタビュー！　高濱による他己紹介「タカタコ」で、みなさんの教室長を紹介します。今年は「私のふるさと」をテーマに、教室長一人ひとりを深掘りしちゃいます。
サマースクールや雪国スクールで会ったリーダーたちも探してみてくださいね！

現地からお届け！

ゆきぐに 雪国スクール 掲示板



野外体験部のもちょが、年末年始雪国スクールをご紹介します。

もちょ
元吉 遥子

開催中の宿泊企画では、「掲示板」で定期的に子どもたちの様子をお知らせしています。
今回は**もちょ**が宿長を務めた「花まるスキー王国 ステップアップスキー（すでにリフトに乗れる腕前の子どもたち向け）クラス」の掲示板をのぞいてみましょう！

※写真はイメージです。さまざまなコースから掲載しています。

01 到着しました！ 1日目

先ほど宿に到着しました。子どもたちは「雪だ！　すごい積もってる！」と目を丸くして大興奮。
お昼をしっかり食べ、準備は万端。1日目のレッスン、楽しんできます！





02 午後の活動報告

はじめは慎重だった子どもたちも、少しずつ感覚を取り戻しスムーズに滑走。転んでも自分の力で立ち上がり、「やっぱりスキーはいいね！」と笑顔がはじけます。
「もうお腹ペコペコ！」夕ごはんが待ち遠しい様子です。







03 おやすみなさい

「おかわり！」「もっと食べたい！」と夕食をペロリと平らげました。
夜はスキーレクチャー。「姿勢！　ターン！　スピード！」を何度も声に出し、気合十分です。難しかったという八の字ブレーキや転んだときの対処法も再確認。「明日はもっと上手に滑りたい！」という気持ちが表情から伝わってきます。





04 おはようございます！ 2日目

「おはよう！」と部屋中に響く元気な声。朝ごはんまでの時間は、班ごとにお片付け競争です。「来たときよりも美しく！」を合言葉に、布団をたたみ荷物を整理整頓。
朝ごはんをもりもり食べて元気いっぱい！　青空のもと準備体操の声が響き、滑る準備は万端です。





05 午前の活動報告

自由自在に滑れるようになってきた子どもたち。スピード調整だけでなく、体重移動やターンでの体の使い方も、リーダーと一緒に考えながら練習しました。転んでも「次はこうしてみよう！」と前向きです。「まだまだ滑りたい！」の声も。
昼食後、いよいよ最後のスキーへ出発します。







タカタコラ 宇宿トンプソン聡真

横浜市青葉区育ちです。青葉台駅のそばで生まれて小学校入学のときにあざみ野駅のそばへ引っ越しました。北八朔公園という緑区との境に位置する大きな公園が遊び場で、夏は男の子で集まってカブトムシ捕りに夢中でした。1日に50匹くらい捕まえたこともあります。大きな池ではイカのお菓子を餌にザリガニ釣り。寄っては来るけれど食いつかないので、最後は「もう手でいくわ！」と手を突っ込んで捕まえていました。

06 午後の活動報告

雪舞うなか、子どもたちは最後まで「気持ちいい！」「景色がきれい！」と目を輝かせていました。2日間の練習で、姿勢・スピード・ターンはもうお手のもの。急な斜面も力強い眼差しで滑りきりました。
涙を流しながら踏ん張った子もいましたが、弱音は聞かれず「楽しい！」「もっと滑りたい！」という声ばかり。技術だけでなく、心も大きく成長した2日間でした。
最後の夕ごはんを前に、「お腹すいたー！」と待ちきれない様子です。










07 仲間と過ごす最後の夜

夕食は、ハンバーグにポテトサラダ、炊き立てごはん、そしてプリン！　たくさん動いて疲れた体に染みる、心躍るメニューでした。
お楽しみ会では、班ごとに堂々と自信をもって発表。仲間の発表に拍手喝采が起こり、みんなで最後の夜を楽しみました。
初めて会ったとは思えないほど、子どもたちの距離は縮まり、強い絆が生まれています。話は尽きず、気づけば就寝時間。「また明日話そうね！」とおやすみなさい。




08 思い出を言葉に

3日目

おはようございます。最終日のお片付け競争は、リーダーの手を借りず子どもたちだけでやり遂げました。布団の端を揃え、荷物の置き方も工夫して、部屋をきれいに。また広く見せる知恵を各班が競います。
作文タイムでは、2泊3日の思い出を言葉に。「そういえば……」と振り返りながら、ぴったりの表現を探して夢中で鉛筆を動かしていました。表彰式では「おめでとう」「ありがとう」を伝えあい、頑張った自分と仲間を称えあいました。
昼食のあと、いよいよバスで出発します。






09 到着予定時刻

子どもたちを乗せたバスが出発しました。
おやつタイムを楽しんでいます。
上野への到着は【17時】を予定。交通状況で変更があれば、掲示板でお知らせします。



10 ご参加ありがとうございました！

初日は緊張気味だった子どもたちも、2泊3日をともに過ごすなかで少しずつ距離が縮まり、名前を呼び合い笑い合う姿が増えていきました。
「ターンができるようになりたい！」「体重移動を頑張る！」と、それぞれが目標を胸にゲレンデへ。一面の銀世界を前に気持ちは最高潮に、何度も滑るうちに「姿勢・ターン・スピード」のコツを掴んでいきました。「膝を意識した！」と自分の言葉で振り返れる姿に、大きな成長を感じます。うまくいかなくても諦めず挑戦して掴んだ「できた！」は、これからの自信になるはずです。
「あっという間だった！」「また会いたい！」と、早くも春休みにある3月雪国スクールを待ち望む声も。仲間との出会いと挑戦を通して、心もひとまわり大きくなりました。ぜひお子さまから3日間の話を聞いてあげてください。




タカタコーチ 山岸あなご亮太
埼玉県で生まれ育ち、都会に出て遊びたい一心で都内の私立高校に入ったので、故郷を問われると素直に紹介しづらいのですが、第二の故郷はインドネシアです。大学3年生のとき、丸々1か月かけてインドネシアのいくつもの島をまわりました。島ごとに食も文化も言葉も異なり、奥深さとおもしろさを感じました。各地の孤児院で子どもたちと遊び、その純粋さに深く魅了されて、現在の「ソトシルクラス」プロジェクトにつながりました。



親子コース 2日目に密着！

釣れなかったら醤油メシ！

無人島サバイバル

もんちとなっきーが花まる子ども冒険島からリポート！

6:30 起床

おはようございます！



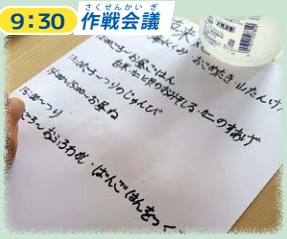
7:00 磯歩きに出発！



9:00 釣りレクチャー



9:30 作戦会議



10:00「釣れなかったら醤油メシ！」サバイバル、スタート！



しかし…満潮で釣りができないので山へ…！



11:30 お昼ごはんづくり開始！



13:00 お昼寝タイム



14:00 釣りスタート！











16:30 夕飯づくり開始







いただきます！



18:00 入浴＆片づけ





サバイバル、終了！！



無人島サバイバル、楽しかった!!





参加者より 荷物の運搬や船の離岸、ドラム缶風呂の海水バケツリレーなど、参加者みんなで力を合わせる場面が何度もありました。テント張りや火おこし、飯盒炊爨では、少しは父親の頼もしい姿を見せられたかなと思います。人前で話すのが苦手だった娘がみんなの前で発言する姿に、確かな成長を感じました。【5年生女子・父】

タカタコラ 宮阪やみ〜太久哉

千葉県船橋市出身。東京のベッドタウンですが、私の住んでいた北部には牛や馬を家畜として飼育している農家などもありました。ボーイスカウトでは船橋県民の森で野草の天ぷらを食べたり、ふなばしアンデルセン公園で遊んだりと、野外の体験は豊富です。家族で田んぼへ出かけてイナゴを集め、佃煮にして食べたりもしました。肥溜めに落ちたときはしばらく姉に「くさいから来ないで」と言われ、いまだに家族が集まると話題になります。

すてきなサムシング

職人のアウトドアレポート



橋本 一馬（職人）

アウト・ドア。それは、家の外ではなく、安泰の外。コンフォートゾーンの内側で冒険が眠りつくとき、ドアは現れる。しかし、思い切ってドアの外に踏み出せば、そこにはきっと人生を変えてしまうような「何か」――「すてきなサムシング」が待っている。これは、職人がアウトドアで見つけたサムシングのレポートである。

サムシング⑦「マクガイバーを知ってるかい」

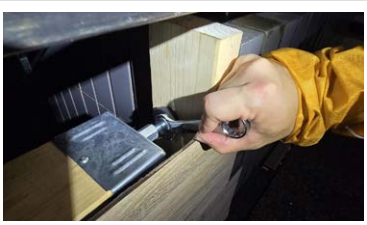
『冒険野郎マクガイバー』というドラマがある。80年代にアメリカで放送されたテレビドラマだ。古い作品だが、当時から根強いファンがいて近年リメイクもされた。日本でも深夜帯に吹き替え版が放送されていて、当時中学生だった私は毎週欠かさずビデオに録画して見ていた。WOWOW（有料放送）で特別編が放送されると知ったときには、学校で唯一WOWOWを契約しているという噂の、あまりよく知らないクラスメートの家に電話をして録画を頼み込んだりした。それほど好きなドラマだった。見逃し配信など存在しない時代の話である。

主人公のマクガイバーは、世の中の悪と戦う正義のエージェントだ。よくある設定。しかし、その戦い方が変わっている。まず、銃が嫌いなので使わない。代わりに、愛用のスイスアーミーナイフ（小さな十徳ナイフ）を駆使し、その場にあるモノを組み合わせて窮地を乗り越えていく。たとえば、チョコレートと硫酸を化学反応させて穴をふさいだり、ペーパークリップで回路をショートさせてミサイルの発射を阻止したりする。武器ではなく知恵で危機を乗り越えようとするその思想と行動は、ファンのあいだで「マクガイバリズム」と呼ばれ、愛されてきた。一度でもマクガイバリズムに魅せられた者は、自分もいつかマックのように機転を利かせて危機を乗り越えてやるのだと、夢を見るようになる。厨二病？　そうかもしれない。だが、視点を変えればナラティブだ。主体的に意味づけられた物語（ナラティブ）が憧れを生み出し、自発的な行動規範を形づくる。そしてそのような力を持つナラティブは、常にドアの外にある。

大きな台風が関東に最接近する前日。予報ではかなりの雨になるらしい。そこで、地下にある教室は水没の可能性を考えて、いまのうちに何か手を打っておいたほうがいいのではないか、ということになった。こういうときは、昔取った杵柄、私の出番になる。しかし、一体何をすればいいのか。授業の合間を縫ってホームセンターに行く時間はない。明日の夜には台風が来る。限られた時間と限られた道具で何とかしなければ。そんな状況が、あの日のビデオデッキのスイッチを入れる。耳の奥ではマクガイバーのオープニングテーマが流れはじめていた。私は考える、マックのように。倒置法で。

授業後、自宅に戻って道具を見繕う。キャンプ用の防水シート、ロープ、電動ドライバー、のこぎり、木材、フローリングカーペットの切れ端、つっぱり用アジャスター。かき集めて現場へ急ぐ。地下フロアは竪穴のようになっていて、幅の狭い階段で地上とつながっている。まずは竪穴全体を防水シートで覆い、ロープで固定した。上からの雨はこれで防ぐ。次に、階段の入り口に水門を作る。もし道路が冠水した場合、あふれた水はここから一気に流れ込むからだ。木材を入り口の幅に切ってアジャスターで固定し、その上からフローリングカーペットの端材をビスで留めて入り口を塞ぐ。途中、相棒のピーター（に脳内変換された同僚）が手伝いに来てくれて、無事に作業が完了した。

結局、雨は道路を冠水させるほどは降らなかったが、それでよかった。教室は無事だったし、私はマクガイバーになれたし。



ガラクタの寄せ集めで作った水門。これぞマクガイバリズム。



翌朝。幸いそこまで雨は降らなかった。このあと役目を終えて撤去。

タカタコラボ 西山わっしょい由乃
横浜生まれのハマっ子です。石川町駅から高級住宅街を抜けた古びた商店街で育ちました。お肉屋さん・酒屋さん・八百屋さんなどのおじさんおばさんにかわいがられました。おつかいに行くと「由乃ちゃん、おつかいなの？」と声をかけられていましたし、いまでもたまに実家に戻って商店街を歩くと「大きくなったねー！」と言われます。コーヒー豆屋さんのクッキーが大好物で、よく祖母に買ってもらったものです。

家族みんなで花まるタイム♪

今月のレインボータイム

【母音ミステリー】

日本語の文字（かな）は、「あ・い・う・え・お」（母音）と、ほかの音（子音）がくっついてできています。「ん」だけは、母音がつかない特別な音です。

ある言葉から子音をとって、母音（あ・い・う・え・お）を残しました。
もとの言葉を考えよう。



出題：水口しぇふ玲（花まるAIS）

解答はこちら！

例 動物 う あ い ➡ うさぎ

文字を伸ばして読んだときに、最後に聞こえる音が母音だよ。
「うー」→ 最後まで「う」
「さー」→ 最後は「あ」
「ぎー」→ 最後は「い」

こん虫

① あ い ➡ ＿＿＿　② お ん お ➡ ＿＿＿＿

③ あ う お う い ➡ ＿＿＿＿＿＿

④ え ん お う う い ➡ ＿＿＿＿＿＿

動物

① あ い お ん ➡ ＿＿＿＿　② あ う あ ➡ ＿＿＿＿

③ い あ う あ ➡ ＿＿＿＿

④ い お あ あ う う い あ ➡ ＿＿＿＿＿＿＿＿

花

① あ あ ➡ ＿＿＿＿　② あ あ あ お ➡ ＿＿＿＿＿＿

③ い あ あ い ➡ ＿＿＿＿　④ あ う あ ➡ ＿＿＿＿

国

① い お ん ➡ ＿＿＿＿　② あ ん お う ➡ ＿＿＿＿＿＿

③ い い い う ➡ ＿＿＿＿　④ う あ い う ➡ ＿＿＿＿＿＿

タカタコラボ 山崎オータム隆
千葉県佐倉市のニュータウンで育ちましたが、市の中心部には印旛沼がありチューリップ畑が有名でした。春になると京成線の窓から見えるのは、風車と一面見渡す限りのチューリップ。旧市街側は城下町の伝統が残っていて、祭りの山車が大きくて子ども時代は見上げていて怖いほどでした。結婚して妻と二人で久しぶりに祭りを見たのですが、やはり山車が巨大で、こんなに大きかったのかと再確認できました。

今どうしてる？ 卒業生物語

花まる学習会・スクールＦＣ卒業生のその後に迫ります。
第42弾は、仲間と刺激し合いながら得意を伸ばして
東大合格をつかんだ、伝説の卒業生にインタビュー！

ようこそ先輩!!



藤井 怜人（ふじい りょうと）さん

【花まる学習会】小1～小3
【アノネ音楽教室】小1～小2
【花みち元気塾】中2～高2
＊担当教室長：村田寛典　ほか
【進路】江戸川学園取手中学校・高等学校→東京大学（理科二類）
【現在】大学生

■花まるの思い出

高濱　東大合格、本当におめでとう！　立派になって。花まるでの日々、覚えている？

藤井　あさがお、サボテン、なぞぺー、それからキューブキューブを覚えています。キューブキューブやなぞぺーでは、楽しみながら空間認識力や考え抜く力を鍛えていただきました。高校以降、積分の分野などで友達が「形をイメージしにくい」と言っていても、僕は比較的すぐにイメージできました。小さい頃から手を動かし、感覚的につかめていたからだと思います。

高　立体の感覚や補助線の浮かび方は差がつくのに、誰も教えていないことに気づいて作った教材だよ。しっかり実力に変えたね。野外体験はどうだった？

藤　サマースクールに参加しました。川で魚を捕って食べたことが思い出深いです。同じチームの子と大げんかしたことも覚えています。

高　いいね～。仲間とぶつかったり気持ちを切り替えたりすることも、心を強くする大切な経験だからね。

■友達と高め合った中学・高校時代

高　中学・高校生活はどうだった？

藤　とても楽しかったです。中学校入学時に、同じクラスで僕の後ろの席に座っていた子とものすごく仲良くなって、同じサッカー部で6年間切磋琢磨しました。その友達が勉強に励む姿に刺激を受けて僕も頑張ることができました。彼がいなかったら、あんなに勉強しなかったと思います。

高　その友達はどこへ進学したの？

藤　東大の文科一類です。

高　おぉ～。互いに高め合える、素晴らしい友達に出会えたね。

■得意科目を武器に、東大入試へ

高　うまくいかなかったことはある？

藤　国語にかなり苦戦しました。中学受験の模試では、２００点満点で30点くらいだったこともあります（笑）

高　読書はしていた？

藤　ほとんどしていませんでした。歴史も得意ではなく、中学受験の頃から国語と歴史にはずっと苦手意識がありました。

高　俺もそうだったけれど、中学受験のために読書するのは難しいよな。でも本はすごくいいから、これからたくさん読んでよ。東大入試ではどう戦ったの？

藤　英語・数学・理科で点を取る方針にしました。数学と物理が得意だったので、数学と物理を軸にして合格できたと思います。

高　それはすごいな。自分の得意と不得意を理解し、得意な分野で勝負したんだね。

■ご両親のこと

高　お母さんはどんな人？

藤　何かを「やりなさい」と強く言われたことはなく、自由にさせてくれました。

高　自分の哲学を磨くには、自分で決めて行動する経験が重要だよ。お父さんはどうだった？

藤　父は病院勤務で忙しかったこともあり、母以上に見守るタイプでした。両親から何かを細かく言われることはほとんどなかったと思います。

高　健やかに育ったね。やはり愛情と放任が重要なんだよな。

■自分の道を探す東大での日々

高　これからどうしたいの？

藤　まだ明確には決めていません。

高　学びや研究はもちろん、さまざまな経験をして、自分の道を見つけてほしいな。これからも本当に楽しみだよ。応援しています！

藤　ありがとうございます！



これまでの卒業生物語はこちら！

タカタコラム　吉岡アロハ直哉

旧大宮市（現在のさいたま市見沼区）が故郷です。大宮駅へ行けば大方の商業施設はなんでもある一方、自宅周辺は見沼田んぼという広大な緑地帯をはじめ、さぎ山記念公園や大宮公園など大きな公園もたくさんあり、カブトムシ捕りやザリガニ釣りに明け暮れました。下校途中に遊び出すので、塾（南浦和の花まる・ＦＣ）に行くのを忘れ、母が自転車で探し回るということもたびたびありました。

第3回 Dr.カニーのおうちメンタルケア【実践編】

蟹江 絢子（かにえ あやこ）
あじさいクリニック（児童精神科・精神科・心療内科）院長。二児の母としての経験も活かし、日々の生活や子育てに役立つ情報を発信中。著書に『対話の科学 親子編　子どものこころを強く成長させる33のセオリー』（こころのサイエンス文庫）など。
あじさいクリニック公式サイト▶

今回のテーマ **自己肯定感**



「いつもネガティブなことばかり言います」
「もともと繊細で目立つことは好みません」
「『めんどくさい』が口癖ですべてに消極的です」

親としてどうかかわったらいい？



本物の自己肯定感には五感が大事

いわゆる自己肯定感（自分の存在価値って、こんなもの）
－
自分の能力・できること
＝
本物の自己肯定感（自分の感性や自分の表現が好き）

自己肯定感というと、「頭がいい」「運動ができる」など能力を思い浮かべがちです。けれど本物の自己肯定感とは、能力を引いたあとに残るもの――つまり「自分の感じ方や表現が好き」と思える感覚です。たとえば、空を見て「きれいだな」と素直に感じられること。それだけで「今日もよかった」「自分の感性が好きだな」と思える心こそが、揺らぎにくい土台になります。外の評価や数字ではなく、自分の内側の感性に価値を置くことが、人生を豊かにします。そのためには、自分の気持ちに気づく力を育てることが大切です。感情には基本となる動きや表情があります。喜びは体が軽くなり、悲しみは肩が落ち、怒りは力が入り、恐怖は身を守る姿勢になります。表情やしぐさに目を向けると、「あ、いま嬉しいんだ」「悲しいんだ」と心に気づけます。笑顔だから嬉しくなることもあります。体や表情は、心のサインです。

ご家庭では、日常の出来事を通してお子さんが「いまどんな表情かな？」「どんな気持ちかな？」と気にかけ、やさしく言葉にしてみてください。感情を説明し、共有する経験が、感性と共感力を育てます。得意不得意があっても、学ぶことで伸びていきます。五感を使って感じ、自分の心を大切にすること。それが、ぶれない自己肯定感を育てる一歩です。

表情やしぐさから自分の気持ちに気づく

喜び	声が明るくなり、体が軽くなる。万歳のポーズで「楽しい」と周囲に伝える
悲しみ	声が沈み、肩が落ちる。体を小さくし「弱っている、助けて」と知らせる
怒り	語気が強まり、拳を握る。「戦うぞ」とエネルギーを集中させる
嫌悪	声がゆっくりになり、口元を押さえる。「近づけないで」と避ける
恐怖	声が震え、体を半身にする。周囲の危険に備え、「逃げる準備」をする
驚き	声が急に大きくなり、手が上がる。「何が起きた？」と確認する





※本記事は、YouTubeで配信中の「Dr.カニーのおうちメンタルケア実践編 第3回 感性と創造性で人生を豊かに」から内容をまとめたものです。もっと知りたい方はYouTube動画をご視聴ください。

タカタコラボ 吉田いっきゅう優太
大阪府交野市育ち。織姫彦星の発祥の地と言われ、京阪交野線には「おりひめ号」と「ひこぼし号」が走っていました。小3の秋からリトルリーグに入り、中3のシニアリーグ卒業まで野球漬けでした。大人になって帰郷したときに、久しぶりに山の上のグラウンドに行ってみたら、そこから見る夜景があまりに美しくて「こんなに素敵な場所で野球三昧だったのか」と感じました。もちろん高校でも野球に夢中でした。



井岡 由実（Rin）

Rinコラム

美意識は、誰かを幸せにする

ある日の授業後、お母さまからこんなおたよりをいただきました。

デカルコマニーに、デカルコマニーが隠れている仕掛け！　子どもの想像力はすごいですね。その日の夜、乾かしていた作品を見て、またやりたくなった娘は、「小さいのはアートの本にするんだ。これが表紙！」と楽しそうに制作していました。途中、「作者の思いはね……」と説明もしてくれました。

先日の私の誕生日には、「ママはここで待っていて！」と言って二階のリビングへ。しばらくして入ってみると、壁には飾りつけがされ、ひまわりのペンダントを首にかけてくれました。私を思って作ってくれたのだと想像すると、心から幸せな気持ちになりました。Rin先生のインスタにあったように、まわりの人を幸せにしたいという思いが、娘のなかにも育っているのかなと感じました。

年中コースの思考実験でもおなじみの「デカルコマニー」は、フランス語で「転写」を意味する、モダンアートの技法の一つです。

最大の喜びは、紙を開くまで、どのような模様があらわれるかわからないこと。絵の具の量や粘度、置く場所によって、色の混ざり方も形も変わります。偶然生まれた模様を見つめながら、「何に見えるだろう」「ここがおもしろい」と自分の関心に従って想像を広げることができ、鑑賞の心を呼び覚ます。この創作レシピは、保育園や小学校でおこなう「対話型鑑賞」の最初の授業に、必ず取り入れているものです。

言葉を使って鑑賞するとき、それは作品を上手、下手で判断する「評価」ではありません。作品には、その人のなかにある美意識が映し出され、「その人らしさ」が宿ります。「いいね」「ここがすてきだと思った」「作者の思いを聞いてみよう」。作品を見つめ、そのよさを言葉にし合うことは、互いの「その人らしさ」を丸ごと認め合う経験になります。

ここでいう美意識とは、色や形の好みだけではありません。どのような言葉や振る舞いを美しいと感じ、何を選び取るのかという、生き方の基準。「人を傷つける言葉は選びたくない」「相手がうれしくなる言葉を渡したい」。そうした判断にも、美意識が表れます。

「目の前の人を幸せにしたい」そんな思いを育てるのは、「あなたがいてくれてうれしい」「ありがとう」と受け止めてもらい、「人に喜んでもらえた」「人の役に立てた」と感じる経験の積み重ねなのでしょう。

「自分の行動は、誰かを喜ばせることができる」という手応えは、自尊心の土台となり、やがて「喜ばせたい、笑わせたい、幸せにしたい」という他者への思いやりへとつながっていきます。

デカルコマニーの技法だけでは終わらない、子どもたちの思考実験と遊び心。自分の作品で目の前の人を幸せにしたいという思いは、自己肯定感や達成感のさらに先にあるものです。

自分の表現や思いをありのままに受け止めてもらった子は、少しずつ自分の美意識を確固たるものにしていきます。自分への信頼はやがて、「今度は自分が誰かを喜ばせたい」という思いへと、ひらかれていくのではないでしょうか。

美意識とは、誰かを幸せにするために、どのような言葉や行動を選ぶかという、その人らしさなのかもしれません。

ARTのとびら
Atelier for KIDs

アーティストの視点と教育者のまなざしで創作と鑑賞を導きます。内容や様子は、HPから「活動のキロク」をぜひご覧ください。

▲活動のキロク



11/15(日)
10:30~12:00
@お茶の水花まるラウンジ

対象	年長～中学生
定員	25名（予定）
参加費	1名4,400円（税込）

詳細・お申し込みはこちら！

申込締切
11/4（水）19:00

タカタコラム 高橋ピノ愛梨
秋田県生まれ練馬区育ちなのですが、故郷はと言われれば埼玉県の秩父です。小5から中3まで、区の野外キャンプに毎年2泊3日で出かけました。中学生になると知らない人と仲良くなる力がグンと伸び、憧れのお兄さんお姉さんを目指してがんばりました。高校生から大学4年生までは主催側のリーダーとして、晴れ・雨それぞれのプログラムなど侃々諤々話し合って決定し実行する熱い青春の時間でした。

大切な成長は、目には見えない





Satomi 勝谷 里美 Katsuya

「大切なものは目には見えない」というのは、サン＝テグジュペリ作『星の王子さま』（岩波書店）の有名なことばですが、花まる学習会で三本柱として掲げている

・本質を見抜く力
・やり抜く力
・人を惹きつける力

これらも、「目には見えない力」だよなぁと感じています。

実際に、子どもたちを花まるに通わせていてすぐに結果にあらわれなくても、数年後に「あぁ、これとこれが結びついて、いまのこの子につながっているのか！」と気づくことがあります。

小6の長女。低学年のときは、花まるの授業で毎週作文を書き、小4からは花まるオンラインの高学年コースの宿題として、毎日日記を書いていました。そして小6で部活の部長になると、誰に勧められたわけでもなく、部長日誌をつけはじめました。自分の思いを言語化し、振り返りをすることの大切さが、自然と身についていたのだなぁと驚き、嬉しくなりました。

小4の長男は、保育園や小学校低学年の頃は、あまり前に出るタイプではありませんでした。それが3年生になると、「学級委員長をすることにしたー！」と言ってきてびっくり。そのあたりから、前に出ることを躊躇しなくなっていきました。きっかけのひとつは、年長から参加しているサマースクールにある気がします。サマースクールから帰ってきてすぐに変化があるわけではないのですが、少しずつ自信が積み重なって、それが発芽したのが3年生のときだったように感じています。目に見えなくても、ゆっくり育まれているものがある。

……と、頭ではわかっているのですが、親としてはつい「できるようになった」「結果が出た」という目に見える変化を求める、という落とし穴にはまってしまいます。

先日、年中の次女が「見てー！」と、自分の名前を書いて持ってきました。

「わぁ、自分で字が書けるようになったんだね。すごいね！」

と声をかけたものの、そのあとすぐに「あ、この『と』は反対向きだね」「『り』は、こっちが長いほうがいいよ」と、気づけば「もっともっと」を求めるような声かけをしている自分がいました。

もちろん「よりよく」の視点で声をかけることも大切。でも、それは本当に「いま」必要だったのか。自分で字が書けるようになって、「見て！」と駆け寄ってきたあの瞬間は、ただ「書けたね！」と一緒に喜ぶだけでよかったのかもしれません。さらに、振り返ってみると、私は子どもの「字」ばかりを見ていて、そのときの「表情」を見ていませんでした。

表情を見たら、「もっときれいに書けるようになりたい」と思っているのか、「できたことを一緒に喜んでほしい」と思っているのか、感じ取れていたかもしれない……と反省しきりでした。

改めて、子どもは、目に見える「できた！」だけではなく、その奥で、目には見えない力も少しずつ育っているということを忘れずに。親も目の前の結果ばかりを追いかけるのではなく、子どもの表情や気持ち、そして目には見えない成長にも目を向けていきたいな、と心を引き締めた出来事でした。



芸術の秋



『としょかんねずみ』
ダニエル・カーク　作
わたなべ てつた　訳
（瑞雲舎）

図書館に住んでいる本が大好きなねずみが、自分でも本を書いてみることにして……というお話。小さい本のなかにつめられた物語に夢中になるだけでなく、最後は、自分自身も……！心を大きく動かされたときに、自分のことを語りたくなるのって素敵ですよね。絵本にこめられた、「誰だって作家になれる」というメッセージを子どもたちにぜひ届けたいです。



『いたずらのすきなけんちくか』
安藤 忠雄　原作
はた こうしろう　絵
（小学館）

世界的な建築家安藤忠雄氏が、ご自身が設計された「こども本の森 中之島」を舞台に、建築のことを興味深く教えてくれる絵本です。「へ～！」「そんなふうに考えるんだ！」といった気づきが満載。建築に限らず、子どもの興味の幅を大きく広げてくれる素敵な絵本です。

タカタコラ 久慈なっきー菜津紀
岩手県の紫波町の農家で生まれ育ちました。家を出て右を見ると東根山、東は早池峰山、そして北にはドドーンと岩手山。山に囲まれて朝日が昇ると起床して、日が沈むと寝るような素朴な日々を過ごしました。高校に向かう途中で旭橋という橋から見える岩手山が本当に素晴らしく、「ふるさとの山に向ひて言ふことなし　ふるさとの山はありがたきかな」という啄木が岩手山を歌った風景そのものを経験しました。

わが家の自由研究

vol.28

ピカソの自由研究④

「揺れ」という愛



Sho
坂田 翔
(ピカソ)
Sakata

長男が幼稚園に入園してから、妻の心には大波小波が押し寄せるようになりました。最初は、預かり保育の「お弁当」のこと。はじめの一週間だけ、お弁当持参で登園することになっていたのですが、初日のお迎えの際に先生からの一言目が「お母さん！　お弁当が多すぎるかもです！　あと嫌いな食べ物も入れないようにしていただきたく……今日は食べられなくて残しました！」だったということで、ぷんぷんしていたのでした。

妻の気持ちはわかりますが、先生の言葉が著しく非常識なわけでもない。ただ妻はその夜、「自分が子どものためにしたことについて、外から何か言われるのが初めてで、悲しくて、いやだった」と言葉にしました。普段、陽気でたくましい母親をしている妻がそう言うので、ああ、これは彼女の「母らしさ」のひとつなのだな、と思いました。

入園に続いて4月のなかば、妻は仕事に復帰しました。長い育休明け、実に3年ぶり。「Geminiがまとめた議事録を見ておいて」と言われて、「海外から来た新しい社員のジェミニさん」だと思うくらいに、仕事環境に対して浦島太郎状態でした。そんななかでも、子育てのバランスが崩れないようにと必死で心がけていた妻でしたが、ある夜、まだ仕事中の私のスマホに、ただならぬ予感のする着信が。

「意味不明だから助けて！　カレーが食べたいって急に言ったから頑張って一時間煮込んだのに、僕これ食べない、パスタにすればよかったって言ってきたの。もう幼稚園の疲れで理不尽なことばっかり言ってるからさすがにパパに電話しなきゃ無理と思って」

と、いままでで一番の怒りを爆発させた妻からのビデオ通話でした。妻も長男も、新しい生活で疲れが出てきているのは明らか。母は忙しいなかでも息子の幸せを優先したい、息子は母に甘えて、愛情をチャージしたい。事件の本体はきっと「疲れ」ではなく、疲れをきっかけに大きくなった「感情の揺れ」だったでしょう。結局私は二人の気持ちを冷静に受け止めて話したのですが、この心の激しい動きには、「羨ましさ」と「尊敬」の念を覚えたのでした。

さて、父としても、花まる教室長としても、私の役割は「揺れないこと」だと思ってきました。どんと構えて、言葉を紡いで目の前の相手を大切にすることで、相手が本来の自分に戻れる。それが相手の「何があっても、私の人生は大丈夫だ」と思いながら生きられる安心感につながる、と信じてきました。

ただ「揺れ」という愛には、鬼気迫る、その瞬間にしかない真剣味があって、妻と話しても、教室のお母さま方と話しても、「揺れ」そのものの貴さに私は心を動かされます。

子育ての最重要項目は、母の安心と笑顔。それは間違いありません。ただ、「揺れなくなること」を目指す必要はありません。「自分のために本気で心を動かす大人」もまた、子どもたちが「条件付きでない愛情」を感じるのに、大切な存在だからです。

子どもを決して「できていないという目線」で見ていなければ、価値観を押しつけなければ、他者と比較をしなければ、あとの「揺れ」は、いいのです。

親としての揺るがない愛があるから、揺れるのです。

火のゆらめき、葉のひらめき、歌声の揺らぎ。美しい「揺れ」には、安定した土台があるものです。

なるほど、私の役割は、「大切な人たちの心が揺れたとき、それが愛や信念からくるものなのだと気づいて安心できるよう、支えること」だったのかもしれません。

保護者のみなさま、どうか安心して、心を揺らしてください。そんなことでは決して揺るがないものを、親になった瞬間から、誰もが持っているはずですから。

タカタコラム 臼杵ウッキー允彦

福岡市育ち。ごはんはおいしく人が好いし熱い、誇れる故郷です。福岡大学附属大濠高校に通ったのですが、当時の担任でバスケ部顧問の田中先生は、大会前に坊主頭にして全国優勝を宣言するようなカッコいい方でした。その年は結局準優勝だったのですが、一昨年・昨年と二連覇して現監督が「田中監督の忘れ物を取りに来ました」と語っていました。私自身は吹奏楽部で全国大会に出場するハードな部活でしたが、熱い青春でした。

出張！FCコラム

2026.10

加藤（かとう） 崇浩（たかひろ）
（レインボー）
スクールFC
北浦和校 校舎長



推し都道府県

スクールFCで多くの卒業生を送り出していますが、卒業後も遊びに来てくれる卒業生がたくさんいます。

先日遊びに来てくれたYさんは、国語が得意、理科や算数は好きでしたが、社会についてはなかなか興味・関心をもてず、本人も「社会は苦手」という認識でした。

スクールFCでの4年生社会の授業カリキュラムは、1学期が地理、2学期が歴史です。年度の初めの学習は九州地方から始まり、徐々に北上していきます。子どもたちは、自分に関連するものに強く関心をもちますが、逆に言えば、自分と縁遠いものには関心をもちにくいということでもあります。自分が住んでいる地域や両親の出身地、親戚が住んでいる地域には関心が向きますが、そうでないところは「ふ〜ん」で終わるなんてことも。ただ、なかには、学習が進んでいくうちに、もともと縁遠かったものの「こ、なんか好きかも！」という都道府県に出会う子もいます。Yさんがまさにそうでした。

Yさんは埼玉県在住、ご両親は東京都出身。地理の授業の開始当初は、自分の住んでいる埼玉県やご両親の実家がある東京都から離れた地方からの学習であるため、あまり関心がもてませんでした。一方で、関東地方のときは、「埼玉県はうどん生産量全国2位なんだよ！」「東京都はブルーベリー生産量が全国1位！」などなど、たくさん発言していました。

そんなYさんを変えたのが、山形県でした。

FCの授業で扱う都道府県カルタは、カルタの読み札の文言だけでなく、都道府県の形（シルエット）も覚える必要があります。山形県は「人が横を向いてぽかんと口を開けている」ように見えたり、「モアイの横顔」と表現したりする子もいます。

まず、Yさんにとって、この「人の顔に見える」が心に刺さったようで、形を見るなり「なにこれ〜、アハハ!!」と大声で笑いはじめました。言ってみれば「ひとめぼれ」だったのでしょう。

その後、知識のインプットに授業が進んでいくと、それまでは埼玉県や東京都のときにしかテンションが上がらなかったのが、山形県についてはたくさん質問してきます。

「『三大急流　最上川』ってどのくらい流れが速いの？」

「『はえぬき』（ブランド米の名称）ってどういう意味？」

この前向きさ、もはや別人のようです。

授業では知識のインプットだけでなく、興味・関心を引き出すために、私が実際に訪れたときの話や本などで得た話をたくさんします。1箱で5万円もすることがある高級サクランボ「佐藤錦」、「はえぬき」以外にも「つや姫」や「雪若丸」などのブランド米があること、ラーメン消費量が日本有数の県であることなどなど。Yさんは山形県の話を、目を輝かせて聞いていました。

そんなYさんが久しぶりに遊びに来てくれたとき、「先生、私、社会苦手だったの覚えていますか？　最近、できるようになってきたんですよ！」と嬉しそうに語ってくれました。そのときに、Yさんは4年生のときに覚えた山形県の話をしてくれました。いまでもYさんのなかに知識としてしっかり根付いているようです。

学んでいることや身近なことに興味・関心をもってほしい。親であれば、わが子にそう思うのは当然でしょう。こちらが思っている以上に、意外なところに子どもたちの興味・関心のスイッチは存在しているのです。どれがスイッチになるかわからない。だからこそ、さまざまなアプローチが必要で、そしてそのアプローチの源泉は「必要なことだから」ということより「楽しい・おもしろい」という要素が強いのです。

これからも、私たちは子どもたちの興味・関心のスイッチをたくさん押しているようなけるような「楽しくて学びになる授業」をしていきます。

タカタコラム 高橋ダイブ大輔

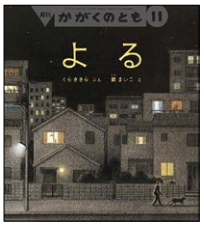
千葉県成田市育ち。成田空港と並んで思い浮かべる方も多い成田山新勝寺が、私にとっても故郷の象徴です。毎年正月には家族で参拝していて、ただその当時は何とも感じていなかったのですが、大学で一人暮らしをし、帰郷した正月に家族で毎年同じように新勝寺に行き、大判焼きを食べ参拝し、うなぎを食べて帰る。その一連の「いつも通りの故郷感」がすごく心を落ち着かせたのを覚えています。



平沼純の旅する読書

vol.82

ドアを開けば、ふしぎが始まる



『よる　かがくのとも2025年11月号』
くらささら　文
嶽まいこ　絵
（福音館書店）

子どもたちにとって最も身近な未知の世界である「夜」を印象的に描いた絵本。静まりかえった公園や、点滅をくり返す信号、人気のない裏通りなど、「自分が眠ったあと、外にはこんな風景が広がっているのかな」と、想像を広げてくれるイラストばかりです。いつもの帰り道や窓の外に広がる夜の風景も、読んだあとには少しだけ冒険の舞台に見えてくるでしょう。



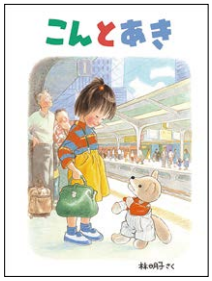
『セカイの空がみえるまち』
工藤純子　著
（講談社）

中学二年生の空良は、帰宅途中にふと新大久保駅で降りたことからさまざまな国籍の人たちと知り合うことに。やがてその街に暮らすクラスメートの翔とともに、自分自身の生き方と向き合っていきますが……。章ごとに空良と翔の二人の視点から描かれる物語で、ヘイトスピーチや外国人差別なども真正面から描かれています。「一歩踏み出して誰かを知ろうとする」とき、自分のまわりの世界がぐんと広く見えてくると改めて感じさせるストーリー。



『ハンカチの上の花畑』
安房直子　作
岩淵慶造　絵
（あかね書房）

郵便配達の良夫さんが酒蔵のおばあさんから預かったつぼの中には、菊の花からおいしい菊酒を作ってくれる、不思議な小人の一家が住んでいました。しかし、やがて良夫さんはおばあさんとの約束を破ってしまい……。メルヘンふうのタイトルや表紙からは想像できないようなミステリアスな展開。幕切れの余韻がいつまでも記憶に残ります。作家の森絵都さんが「恐怖と憧憬が共存するあっち側の世界」と絶賛したことも話題に。



『こんとあき』
林明子　作
（福音館書店）

きつねのぬいぐるみ・こんと、少女あきが繰り広げる、小さくて大きな冒険の物語。終盤の鳥取砂丘の風景のほか、駅や町並みなども魅力的に描かれていて、何気ない日常が輝きはじめる一冊です（ページのいたるところに描かれているさまざまなキャラクターをぜひ見つけてみてください！）。作者の林明子さんは2026年7月に逝去。世代を超えて愛される本作を親子で開いて、こんとあきと一緒に「日常の冒険」へ出かけてみませんか？



『かすみ川の人魚』
長谷川まりる　作
吉田尚令　絵
（講談社）

第55回日本児童文学者協会賞新人賞受賞作。学校近くのかすみ川で見つけて飼いはじめたものの、やがてとんでもない事件を起こした一匹の人魚との思い出……。よくあるファンタジックなイメージの人魚とは異なり、この物語の人魚はかなりミステリアスで不気味な存在。終盤で登場する「謎の少女」は結局誰だったのかなど、多くの謎が解明されないまま終わる、非常に独特な読後感です。作者は『杉森くんを殺すには』（くもん出版）や『呼人は旅をする』（偕成社）などの心打つ作品で近年人気。

読書講座

12/17（木）
10:30~12:00

～音楽で彩る聖夜の情景～
第6回　本×クリスマス
@スクールＦＣ用賀校
参加費：500円（税込）

詳細はこちら

※品切れなどの場合は図書館で探してみてください。

タカタコラ 松田123456ななリーダーな奈

育ったのは埼玉ですが、故郷というと両親の実家がともにある石川県七尾市のことが思い出されます。夏には必ず帰郷。いったんは父方の祖父母宅へ行くのですが、父が6人きょうだいで全員結婚していたので、子どもも入れるとパンク。私たち4姉妹は遊ぶだけ遊んだら母方の祖母宅に歩いて帰りました。田んぼのなかをワイワイ話しながらの帰路も、朝の往路も、きれいな風景で本当に楽しかったことを覚えています。

花まるの教室長を紹介します！

Hanamaru Family

花まるファミリー

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！

IS…花まるAll Inclusive School　FC…スクールＦＣ
…花まるオンライン　…算数脳ラボ　GONOU…GONOU 囲碁教室



伊井 祥花（いい さちか）

東京南　東京都



大谷津 虎太郎（おおやつ こたろう）

東京東　栃木県



岡本 祐樹（おかもと ゆうき）

東京東　GONOU　神奈川県



小倉 百華（おぐら ももか）

神奈川北　神奈川県



尾瀬戸 涼（おせど りょう）

東京南　千葉県



草替 美柚（くさかい みゆ）

東京西　神奈川県



栗林 英一（くりばやし えいいち）

東京東　FC　東京都



佐々木 真音（ささき まさね）

東京東　島根県



鈴木 あかり（すずき）

千葉・茨城　三重県



富永 真子（とみなが まこ）

中京　茨城県



秦野 達也（はだの たつや）

神奈川北　神奈川県



春木 満之（はるき みつゆき）

東京南　島根県



村田 寛典（むらた ひろのり）

千葉・茨城　千葉県



柳澤 隼人（やなぎさわ はやと）

東京東　IS　東京都



高濱 正伸（たかはま まさのぶ）

○○○　熊本県

リーダーネーム
名前
担当エリア・部門
出身地

10月の誕生花は ガーベラ

タカタコラボ 加藤カトパン崇彰

茨城県育ちですが、もう一つの故郷は北海道の十勝です。大学を出て通信で教員免許を取りながら花まるの野外体験部で働いていました。「ライガーと行く！開拓ボクらの北海道」というコースにリーダーとして参加。牛の乳しぼりにトウモロコシ採りに昆布干しなどを子どもと体験。すると不登校だった小６の男の子が「カトパン、俺９月から学校行くわ」と。野外体験の大きな力を感じて北海道へ移住。７年後に花まるに戻ってきました。